

ご担当者各位

SKIPシティ国際Dシネマ映画祭2016 受賞結果発表！ 長編部門グランプリ『朝日が昇るまで』

SKIPシティアワード『見栄を張る』(藤村明世監督)

短編部門グランプリ『嘘について』

アニメーション部門グランプリ『こんぷれっくす×コンプレックス』

平素よりお世話になっております。世界に先駆けてデジタルシネマにフォーカスし、若手映像クリエイターの登竜門として2004年にスタートしたSKIPシティ国際Dシネマ映画祭は、7月16日(土)より13回目の開催を迎え、最終日となる本日24日(日)のクロージング・セレモニー(表彰式)にて、長編部門・短編部門・アニメーション部門の、コンペティション3部門の各賞を発表いたしました！

長編部門では、昨年のグランプリ『ビヘイビア』(キューバ/エルネスト・ダラナス・セラノ監督)に続いて、ラテンアメリカ作品『朝日が昇るまで』(メキシコ/アレハンドロ・グスマン・アルバレス監督)が受賞し、ラテンアメリカ映画のクオリティの高さを印象づける結果となりました。また国内作品に贈られるSKIPシティアワードは、藤村明世監督の『見栄を張る』が受賞しました。今年も受賞作品をはじめとするノミネート作品・監督から、映画の未来を担う新たな才能が羽ばたいていくことを願っています。ぜひ本情報を貴媒体にてご紹介くださいますよう、よろしく願い申し上げます。



長編部門(国際コンペティション) 受賞結果

最優秀作品賞

主催者賞：賞状、トロフィーの授与
ソニーD シネマアワード：賞金 100 万円の授与



『朝日が昇るまで』

2015年/メキシコ/104分
監督：アレハンドロ・グスマン・アルバレス
©2015 Pluto Films

監督賞

主催者賞：賞状、トロフィーの授与
ソニーD シネマアワード：賞金 50 万円の授与



『タンナ』

2015年/オーストラリア・バヌアツ/104分
監督：ベントレー・ディーン、マーティン・バトラー
©2015 Contact Films

脚本賞

主催者賞：賞状、トロフィーの授与
ソニーD シネマアワード：賞金 50 万円の授与



『アヒルからの贈り物』

2015年/ベルギー/84分
監督：オリヴィエ・ランジェ
©Ring Prod

SKIP シティアワード

<国内作品を対象に、今後の長編映画制作に可能性を感じる監督に対して授与する賞です>
主催者賞：トロフィーの授与、受賞者の次回企画に対し、彩の国ビジュアルプラザ内の映像制作支援施設・設備の一定期間の利用を提供



『見栄を張る』

2016年/日本/93分
監督：藤村明世
©Akiyo Fujimura

短編部門(国内コンペティション) 受賞結果

最優秀作品賞

主催者賞：賞状、トロフィーの授与
川口市民賞：トロフィー、賞金 50 万円の授与
※最優秀作品賞の副賞として SKIP シティアワードを授与
※SKIP シティアワード:受賞者の次回企画に対し、彩の国ビジュアルプラザ内の映像制作支援施設・設備の一定期間の利用を提供



『嘘について』

2015 年/日本/25 分

監督：三ツ橋 勇二

©YUJI MITSUHASHI

奨励賞

主催者賞：賞状、トロフィーの授与
川口市民賞：トロフィー、賞金 30 万円の授与



『テイク8』

2015 年/日本/19 分

監督：上田 慎一郎

©八王子日本館



『夕暮れの催眠教室』

2016 年/日本/25 分

監督：井上 博貴

©inoue hiroki

アニメーション部門(国内コンペティション) 受賞結果

最優秀作品賞

主催者賞：賞状、トロフィーの授与
しまむらアワード：トロフィー、賞金 10 万円の授与
※最優秀作品賞の副賞として SKIP シティアワードを授与
※SKIP シティアワード:受賞者の次回企画に対し、彩の国ビジュアルプラザ内の映像制作支援室などの一定期間の利用を提供



『こんぷれっくす×コンプレックス』

2015 年/日本/24 分

監督：ふくだみゆき

©PANPOKOPINA

奨励賞

主催者賞：賞状、トロフィーの授与
しまむらアワード：トロフィー、賞金 5 万円の授与



『愛のかかと』

2016 年/日本/10 分

監督：円香

©2016 MADOKA/Graduate School of Film and New Media, TOKYO university of the ARTs



『あたしだけをみて』

2016 年/日本/7 分

監督：見里 朝希

©2016 Tomoki Misato

<グランプリ受賞者コメント>

◎長編部門 最優秀作品賞受賞 『朝日が昇るまで』アレハンドロ・グスマン・アルバレス監督

グランプリに選んでいただいて、まさか受賞できると思っていなかったのが本当に嬉しい。映画制作というのは、メキシコでも大変ですが、世界中どこでも、非常に困難なことだと思います。ですから今回グランプリをいただけたことは、これからも映画制作を続けていくというエネルギーになると思います。

◎短編部門 最優秀作品賞受賞 『嘘について』 三ツ橋 勇二監督

スタッフ、キャストの皆さん、特に脚本の米内山陽子さんがいなければ、この映画は生まれなかったと思うので、本当に感謝しています。そして主演女優3人、田中千佳子、中村貴子、高橋恭子の輝きがこの映画の全てだと思います。ありがとうございました。

◎アニメーション部門 最優秀作品賞受賞 『こんぶれっくす×コンプレックス』 ふくだ みゆき監督

単純にすごくすごくうれしい。この作品はお話や役者の演技を際立たせるため動きがとても地味です。アニメーションという分野で戦った時にそれがどう映るのか不安でしたが、こんな素晴らしい賞をいただけて嬉しく思っています。

<審査委員長コメント>

◎長編部門 国際審査委員長 岡田 裕氏 (アルゴ・ピクチャーズ株式会社代表/映画プロデューサー)

映画は監督ひとりで作れるものではなく、大勢の人間が関わってできるもので、そうすると必ずその時代の“匂い”を持つ芸術です。国際映画祭で色々な映画を観るということは、世界の人々が、今どんなふうに生きているのか、どんな匂いがするのかわかることができるとも楽しいものです。今回、作品の質が非常に高かったことに驚きました。ただ、その中で、日本映画の製作者として自分の身の回りの物語を描くタッチが多く、多少残念でした。次回、あるいは次々回、日本映画の若手監督たちが新しいテーマを見つけて、グランプリを取っていくことを期待している。

◎短編部門 審査委員長 梶井 省志氏 (株式会社アルタミラピクチャーズ代表取締役/映画プロデューサー)

審査でどの作品を選ぶかというのは、極めて不確定な要素で選ばれているものです。今回選に漏れた監督も、140本以上の応募からノミネート12本の中に選ばれたということに自信を持って良いと思います。その中で監督たちがそれぞれ追求しているものをさらに深めていけば、次なるチャンスが待っていると思うので、今回ノミネートされた12人の監督には引き続き頑張ってもらいたい。

◎アニメーション部門審査委員長 氷川 竜介氏 (アニメ・特撮研究科/明治大学大学院客員教授)

今回集まった作品は手書き、ストップモーション、CGなどバリエーション豊かで、そういった中で3本の作品を選び出すのはとても困難だった。今まで観たことのないようなものにチャレンジしているということに比重を置き最優秀作品賞の『こんぶれっくす×コンプレックス』を選んだ。今回ノミネートされた監督たちには今後も様々な技法を通してアニメーションを進化させていきたい。

<主催者コメント>

◎上田 清司 埼玉県知事 (SKIPシティ国際映画祭実行委員会 会長)

上映作品はどれもそれぞれの国の「今」を描いた秀作であった。ご来場いただいた皆さまにも、才能ある若きクリエイターたちの作品にける情熱を感じていただけたことと思う。埼玉県では、才能の発掘だけでなく、更なる成功へと導くための様々なプログラムを用意している。若い才能を全力で応援して、ここSKIPシティから世界に羽ばたき、映画界を席巻するエースをぜひとも誕生させたい。

◎奥ノ木 信夫 川口市長 (SKIPシティ国際映画祭実行委員会 副会長)

クリエイターの情熱や、鋭い感覚と、最新のデジタル技術が融合することで生み出された優れた作品が大変多く、ノミネート作品を通じて、デジタルシネマの魅力を充分感じていただけたと思います。今回映画祭に参加したクリエイターの皆さんの中から、世界に通用する人材を輩出できれば、こんなに嬉しいことはありません。本年度のオープニング作品『話す犬を、放す』の熊谷まどか監督のように、再びこの映画祭で作品を上映させていただけることを楽しみにしています。

◎土川 勉 映画祭ディレクター

各部門の審査委員長から総評があった通り、今年は作品の力が拮抗し、いずれも甲乙つけがたく、審査も難航しました。その中で受賞した作品には心から賛辞を送りたいと思います。また今回、選に漏れた監督たちにも、今後の健闘を期待したいと思います。この映画祭に向けて尽力していただいたすべての関係者と、お客様に感謝を申し上げます。来年もまた、この場でお会いしましょう。

<SKIPシティ国際Dシネマ映画祭2016 開催概要>

■会期：2016年7月16日(土)～7月24日(日)

■会場：SKIPシティ 映像ホール、多目的ホールほか(川口市上青木3-12-63)

■主催：埼玉県、川口市、SKIPシティ国際映画祭実行委員会、特定非営利活動法人さいたま映像ボランティアの会

■公式サイト：www.skipcity-dcf.jp

【お問合せ】SKIPシティ国際Dシネマ映画祭事務局 広報：堀切、小堺

TEL:048-263-0818 FAX:048-262-5635 E-Mail:press@skipcity-dcf.jp MOBILE:090-4228-2342(堀切)